

くらくまつえもん
工楽松右衛門

寛保3年（1743年）～文化9年（1812年）

高砂は小さな町である この小さな町から「後の世のため」に尽くした工楽松右衛門という人物が出た 町の大小は関係がない 志があるか その志が広く大きなものであるかどうか そして 志を実現するために努力しているかどうか それが大切ではないか

幼少の頃から改良や発明が好きだった松右衛門は それまでの脆弱な帆布のかわりに播州木綿を使った厚地大幅物の帆布の織り上げに成功し 「松右衛門帆」と呼ばれて全国の帆船に用いられるようになった また 松右衛門は幕府の命を受けて千島の択捉島に埠頭を築き 函館にはドックもつくった

これらの功により「工夫を楽しむ」という意味の工楽の姓を与えられ その後も優れた築港技術者として活躍し 高砂港や鞆の浦防波堤などにその足跡をみる事ができる

松右衛門の工夫や発明は 松右衛門帆以外に荒巻鮭（新巻鮭）石船 砂船 ろくろ船 石釣船などもある

高砂市教育委員会編纂

風を編む 海をつなぐ <工楽松右衛門物語>より

工樂松右衛門高砂人也性頗智巧嘗以開物利世
爲志焉前此本邦船所用帆布脆弱易破卷舒不便
松右多年苦心有所發明自織大幅產布製以爲帆
試用之其家船輕便耐久天明五年置場于二見多
雇人製之舟人爭購求竟遍布海內呼曰松右衛門
帆寬政二年幕府欲開蝦夷地召松右于江戸使吏至
擇堤嶋築埠頭十月寒甚請歸次年再赴竟竣工尋
造函館船渠幕府前後賞之賜姓工樂文化六年老
中小笠原侯帶幕命將航對馬侯備風濤候船室松
右聞之以鐵鎖釣室乃無患矣侯大喜又疏開豐後
伊田川以漕運彦山巨木益授其法於土人也至今
土人深德之七年築高砂港藩主酒井侯賞以五口
俸與黃金八年福山侯欲築于鞠港聞松右名請其
藩主雇之松右時罹疾勉强往了事侯大感其篤志
饋以三口俸次年八月病竟不起享年七十明治十
三年車駕巡幸亞子兵庫使三條相公賜金返賞之
大正四年 今上行即位之禮詔贈從五位蓋出於
持典也 大正五年十月 攝本德有則撰



保存
神木
神木
神木



境内で野球ボール遊び
をしないで下さい
高砂神社



奉

高砂神社

